



昭和57年から受け継がれてきた「子ども大黒舞」の太鼓を披露する園児たち

町立わかば幼稚園が閉園 修了生延べ723人 49年間の歴史に幕

49年間の歴史に幕——。令和3年度末で閉園となる町立わかば幼稚園(関菜利園長、園児5人)の卒園式と閉園式が、3月18日に町関係者や保護者など27人が出席して行われました。最後の卒園式を迎えたのは、園児3人(男児1人、女児2人)。関園長から「小学校でもチャレンジ精神を忘れずに取り組んでください」と修了証書が手渡されると、「はい」と明るく元気にこたえていました。

昭和48年4月の開園以来、幼児教育の場として地域に根づいてきた同園ですが、少子化の影響で閉園することになったものです。ピーク時に70人近くいた園児数は、



わかば幼稚園の園舎

徐々に減少。3歳児の受け入れを始めた平成8年度以後もその数は減り近年は10人を切る状況が続いていました。

閉園式では、昭和55年度修了生で同園PTA会長の吉川正さん(ただし)が、「地域ぐるみの運動会はまるで祭りのようにした。園が無くなるのは寂しく残念ですが、思い出は未永く受け継がれてほしいです」と在園当時を振り返っていました。式最後には、長年受け継がれてきた「子ども大黒舞」の太鼓が園児らから披露されると、地域の方々に愛され親しまれてきた伝統の調べが哀愁を誘っていました。同園の修了生は計723人になります。

山田中学校の卒業生96人 夢と希望胸に新たな道へ歩み出す

“旅立ちの3月”。町内では、卒園式や卒業式が行われ、児童生徒らは見守り育ててくれた施設や学び舎を後にしました。山田中学校の卒業式は、3月13日に同校体育館で行われ、96人(男子59人、女子37人)が、佐々木秀毅校長から卒業証書を受け取り、3年間の中学校生活を終えました。厳粛な雰囲気包まれた式では、在校生たちとの心のこもった歌やメッセージなどを交わされ、父母や教職員らは、心身共に立派に成長した卒業生の姿を温かく見守っていました。この春、卒業生らは、それぞれの夢と希望を胸に新たな道へと歩み出します。



町長室から

今年で東日本大震災から11年が経過した。この期間、一丸となって町づくりにまい進してきた町民の皆さんのためめ努力に感謝と敬意を表する。いつも職員には「町づくりは短距離走ではなく、マラソンでもない。ゴールの見える中距離走だ」と言ってきた。これは「形が見えないうちに結論を出す」と後悔することがあり、時間を掛けすぎると息が切れてしまう。しっかりとゴールを見据えながら進めることが大切」という意味だ。災害公営住宅の建設を例に挙げて、これが当てはまる。山側に建てると早く完成するが、町の中心地から離れると買い物などで住民が困る。しかし、かさ上げした土地に建てると時間が掛かってしまう。復興期間中は一長一短を考え、ゴールを見据える必要があった。11年の月日が経っても、心に多くの悩みを抱える町民がいることを忘れず町づくりを続けていきたい。

山田町長 佐藤 信逸



町のわたい

今月の題字 田代 つなよし 綱慶君（船越小4年）

東日本大震災から11年 献花台前で犠牲者を追悼

東日本大震災から11年を迎えた3月11日、町中央公民館大ホールには東日本大震災の犠牲者を追悼するための献花場が設けられました。今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、式典は執り行わず、自由献花方式に変更。午後2時の開始から遺族など209人が会場を訪れ、献花台に花を手向けていました。震災が発生した午後2時46分には御蔵山復興記念公園で、佐藤信逸町長ら町幹部職員や地域住民などが海に向かって、1分間のサイレンに合わせて黙とう。犠牲者を悼み、震災の記憶と教訓を風化させないよう決意を新たにしました。



佐藤さんが題材にした宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」

第41回全国高校生読書体験記コンクール 佐藤楓恋さんが全国8傑に入る

（公財）一ツ橋文芸教育振興会主催の第41回全国高校生読書体験記コンクールで、佐藤楓恋さん（石岐・18）の作品「いつか、カムパネルラに」が、全国8万3,538編の中から、中央入賞（8人）の一ツ橋文芸教育振興会賞に選ばれました。自らの生き方に影響を与えた本を取り上げ、考えをつづる同体験記。佐藤さんは宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」を題材に、祖父の死と作者の心情などを重ねて考察、日本文学者の渡部芳紀さん（飯岡）にも取材を行うなどして考えをまとめました。小説を書くのが趣味という佐藤さん。「いつか自分の本を出版したいです」と将来の目標に目を輝かせます。

北京冬季パラリンピック 阿部選手が奮戦8位入賞果たす

本町出身で北京冬季パラリンピック出場の阿部友里香選手（26）が、3月7日に行われたクロスカントリースキーの女子15キロクラシカル立位で、8位入賞を果たしました。同種目での入賞は初出場の2014年ソチ大会以来2度目となります。3大会連続出場となった本大会では、バイアスロンとクロスカントリースキーの2競技5種目に出場し奮戦。大会最終日の13日に行われたクロスカントリースキーの混合10キロリレーでは、7位と惜しくも入賞を逃しましたが、最終走者を務め、仲間がつかない「たすき」をゴールへと運び、力強い滑りを見せてくれました。



8位入賞を果たした阿部友里香選手（株）日立ソリューションズ「チームAURORA」所属